

2023年5月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2023年5月13日（土）10時00分～12時00分（120分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-1

集合：蓮華亭（受付9:45～）

内容：今月のテーマ：道端の草花「雑草と呼ばないで」

①ハクウンボク（えごのき科）

漢字で書くと「白雲木」、樹下から眺めるとたなびく白い雲に

②オオムラサキ（つつじ科） 国蝶と同じ名前だね

赤や白、ピンクの大きな花が咲き、蜜を求めて昆虫も集まります

③シャクヤク（ばたん科） 美人に例えて「ボタン・ユリも」

ボタンに続いてシャクヤクの花が咲き出しました。どう違うの？

④ハナショウブ（あやめ科） 子どもの日のショウブとの違いは？

菖蒲園には色とりどりのハナショウブの花が咲いています

⑤クリの葉（ぶな科） クリとクリタマバチの関係は？

クリの雄花と雌花を観察してみよう。イガの中に雌花は3つ膨らみかけています

⑥カナメモチ（ばら科） どんなお餅なの？

不思議な名前です。カモメのお餅はどこかで食べたことあるよ。

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・メジャー・捕虫網・虫ケース

お話し：亀井尊（ちばサイエンスの会・日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて、自然に親しみます

2. マスクを着用し、距離を保ち、適度に水分補給をします

3. 植物採集、昆虫の採集はできません

4. 植物のトゲ、昆虫の毒に注意しましょう

時間配分 9:45 受付開始

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説・諸注意

10:10～11:50 コース

綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行き、戻ります。

①植物と昆虫の関係「虫こぶ」 ②木本と草本との違いは？

③雑草という植物はありません ④草花遊び「シロツメクサの花輪」

11:50～12:00 今日の観察会を振り返って。 来月の予定 6月10日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

1. 大木を見上げてみましょう。いま、花が咲いているのはハクウンボクやトチノキなどです。花が咲き終わると大きな緑の実をつけ、その種子はラグビーボールのような茶色となります。
2. 公園内にはつつじの花が満開です。そのなかでもオオムラサキの花は一段と大きく、昆虫が蜜を求めて花の中で見られます。昆虫は花の上部にある蜜標を目指して飛んできます。
3. ボタン園では2種類の植物が見られます。4月の中旬から咲き出すのはボタンです。木本類なので花が終わっても枝葉が残っています。シャクヤクは木本類なので冬には見られません。
4. 千葉公園の南口から入ると左手に菖蒲園があります。綿打池の水を引き込んだ湿地にはハナショウブ、キショウブなどあやめ科の花が咲いています。ショウブはサトイモ科の植物です。
5. 千葉公園にはクリの木が2カ所で観察できます。秋にはイガグリが落ちています。荒木山のクリの木には葉の付け根が膨れ上がって葉の生長が損なわれています。コブの正体は何か？
6. 生け垣などに利用される植物にカナメモチ（ばら科）があります。この時期になると葉が真っ赤に染まり華やかに見えます。どうして緑の葉が赤く変化するのか不思議ですね。

主催：NPO 法人 ちばサイエンスの会 連絡先 090(3503)6059（亀井）

千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

《新緑の千葉公園》 道端の草花に目を向けてみよう！

いつも気になる草花が身近にあって、とつてもきれいなピンクの花を摘んでいいのか迷ってしまいます。雑草というので摘んで持ち帰り、母親に手渡すと、「まあ、きれいなユウゲシヨウの花ね。コップに入れて」と言いました。ちゃんとした名前があることを嬉しく思い、観察を続けていきます。

どんな草花にも名前があり、花の色や花びらの数、葉の形、実の形など、それぞれ個性的で一生懸命に生きて、命を繋いでいることが凄いことだと感心します。図鑑でユウゲシヨウという植物を調べてみました。花びらは4枚、オシベ8、あかばな科、アメリカ原産の帰化植物ということでした。

温暖化の影響を受けて、今年は木々の芽吹きや開花は例年よりも早いようで、昆虫の発生が植物の開花に追いつけず、ハナバチやミツバチなどの受粉する姿を見付けられませんが、そうすると子孫を残す（虫媒花 85%）ことが難しくなります。温暖化の影響による環境の変化が気になります。



【ユウゲシヨウ】



【ハルジオン】



【コバンソウ】



【ナガミノヒナゲシ】

1. ハクウンボク「えごのき科」 *果実の果皮にはタンニンを含んでいるので「えぐい」
 今月は巨木の枝先を見つめながら園内を散策してみましょう。普段は足元の植物や目の前に咲く植物のようすを観察しているので、時には視線を高い所に移してみることも大切です。ハクウンボクやトチノキ、ユリノキの新芽が膨らみはじめ、花を咲かせることとなります。樹木の観察は注意して観察してみると必ず花が咲き、実を結び、紅葉して落葉を繰り返しています。そのため、植物が日々どのように変化していくのかを毎日観察することがとても大切なのです。



【ハクウンボクの蕾】

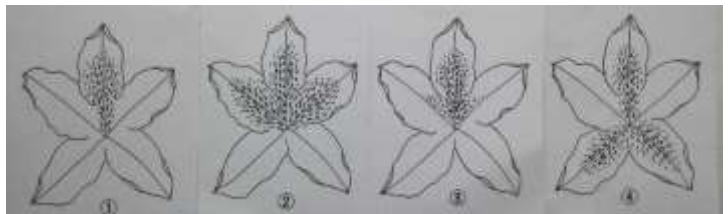


【ハクウンボクの花】



【ハクウンボクの黄葉】

2. オオムラサキの花 ツツジの仲間はガイドマーク（蜜標）で蜜のありかを虫にアピールします！
 この花を正面から見ると、ろうと状の花冠は先が5つに深く切れ込み、花びらに斑点があります。この斑点をガイドマークとか蜜標といい、虫が吸蜜に来るときの目印の役目をしています。
 さて、ここでクイズです。
 問1. オオムラサキの花をスケッチしました。特に蜜標の斑点に注意して描いてみました。次のどれが正しいですか？
 問2. オオムラサキの蜜を実際になめてみましょう。どんな味がしますか？



3. ボタン園にて ボタンとシャクヤクとの違いを観察しましょう！
 美女を花に例えて、「立てばシャクヤク、座ればボタン、歩く姿はユリの花」という言葉があります。ボタンもシャクヤクもばたん科の植物で、見事な大きな花びらを幾重にも重ねて咲き、その中心にはたくさんのオシベがみられ、良い香りを放って人々を魅了します。本当に香りますか？香りが高ければ昆虫は当然集まってくるはずですよ。どんな昆虫がみられるか調べてみましょう。チョウですか？ それともマルハナバチですか？ それともミツバチかな。

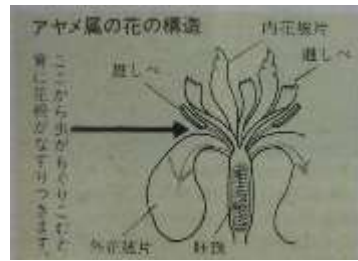
さて、これらの植物の大きな違いは何かというと、ボタンは木本類、シャクヤクは草本類ということです。木本類とは、簡単に言えば「木」です。年輪を重ねて幹や枝が太く生長していきます。そのためボタンは冬の時期でもボタン園で葉を落とした木を確認することができます。シャクヤクは草本類なので、冬の時期には草なので刈れてしまい、見るできません。



【ボタンの花と葉】 【ボタンの枝葉】 【シャクヤクの花と葉】 【シャクヤクの枝葉】

4. 菖蒲園にて ハナショウブは「あやめ科」、ショウブは「さといも科」の植物で全く違います！ 綿打池から水を引き込んだ低地にはあやめ科のハナショウブやキショウブが咲いています。JR 千葉駅から歩いて約 10 分すると、千葉公園の南口入口に着きます。正面の花壇には季節の花々が植栽され、「千葉公園」と書かれた可愛い看板が立っています。入口から入るとケヤキのトンネル並木になっていて、訪れる人々を綿打池へ誘導してくれます。その入口左手に菖蒲園があり、いくつかのベンチが設置されているので、ゆっくりと花を鑑賞することができます。

さて、あやめ科の花の構造を調べてみましょう。花びら、萼、オシベは3、メシベ1があやめ科の特徴です。更に葉はもっと不思議です。それは見えている葉は全面が裏側で「単面葉」なのです。この葉でカタツムリを作ってみましょう！



あやめ科の植物【ジャーマンアイリス・シャガ】【あやめ科の構造とカタツムリ】

5. クリとクリタマバチ「クリの木に虫こぶのようなものが見えます」 1950年代に急速に拡大クリタマバチはクリの新芽に虫こぶ（虫えい）をつくる害虫で、中国原産の侵入害虫と考えられています。成虫は体長2～3ミリの小さなハチで、6～7月に虫こぶに穴を開けて外に出て、直ぐに新芽に産卵し、孵化した幼虫は芽の中にもぐり込んで越冬します。翌年の4月頃から幼虫の入った芽が異常に肥大して虫こぶになります。幼虫は虫こぶの内部を食べながら急速に成長して、蛹から成虫になります。一つの虫こぶに1匹から10匹以上の幼虫が入っています。虫こぶができると枝葉の生育や開花、結実が阻害され、ひどい場合にはクリの収穫が皆無となったり、枯れ死することもあります。



【クリの虫こぶを半分に切ったところ】

6. カナメモチ「ばら科」
モノレールが通過する千葉公園の垣根に葉っぱが赤いカナメモチが植栽されています。不思議なことに葉っぱが青いのと赤いものがあります。赤い葉は良く目立つので「ベニカナメモチ」とも呼ばれます。この時期には鮮やかな赤い葉が燃えるように生け垣を飾り、白い花が咲きだします。花の構造から「ばら科」の植物であることが分かりますが、どうして名前が「カナメモチ」なのでしょう。「カナメ」は扇子の要にこの枝を使用したといわれ、「モチ」の葉に似ているからだと言います。現在は、扇子の要には金具が一般的です。それではどうしてこの時期に赤くなるのか、植物の戦略を考えてみましょう。紫外線の影響を防ぐため賢い植物の防衛手段のようです。



【カナメモチの花の蕾】

《 5 月 》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】ハクウンボク



①樹木の高い所で白い花が下向きに咲いています。良い香りが漂い、蜜を求めて昆虫が飛びます。

【②】オオムラサキ



②花びらを観察すると上の方に赤い蜜票があります。この奥に蜜があることを示しています。

【③】シャクヤク



③みごとなシャクヤクの花が咲いています。どんな昆虫が訪れていますか調べてみましょう。

【④】ハナショウブ



④ハナショウブの花の構造を調べてみましょう。オシベとメシベはどこに隠れているかな？

【⑤】クリとクリタマバチ



⑤クリの枝の若葉に茶色のコブが見られます。クリタマバチの幼虫がコブの中で生長します。

【⑥】カナメモチ



⑥千葉公園の生け垣は見事な赤い葉で覆われて道行く人に初夏の訪れを知らせます。